

## 「デュプリケートブリッジの規則（2017年版）留意事項」

2018年3月31日から適用される新規則の留意事項についてお知らせします。

### ・座り間違いなどでの「間違ったボード」

間違ったボードでオークションを始めると、途中で中断せず、そのボードを最後まで続けなくてはならなくなりました。間違えると大きな支障をきたしますので、移動の際はラウンド、テーブル、サイド、対戦相手、ボードをしっかりと確認しましょう。

### ・「意図と異なるコール」

コールの書き間違いの訂正は、パートナーの次のコールの前までになりました。考えを変えたり、集中力が途切れたことによるコールの変更は認められません。「意図と異なるコール」かの判定はディレクターが行います。

### ・オークション前に落としたカード

ボードからカードを取り出し、オークションが始まる前までにカードを落とし、パートナーに見えるような位置にあった場合、今までとは違い、ハンドに戻しそのままオークションを行います。ただし見えたカードの情報は、反則者のパートナーにとっては「不当な情報」となります。

オークションが始まったあとの場合は今まで通り、テーブルの上に表向きに置いておきます。プレーが始まるとペナルティーカードになる可能性があります。

・「同等なコール」といった概念が導入されます。「不十分なビッド」、「順番外のコール」で適用されます。「同等なコール」とは、

1. 取り消したコールと同じまたはほぼ同じ意味を持つコール
  2. 取り消したコールが示唆するいくつかの意味のうちの一部だけに限定するコール
  3. 取り消したコールと同じ目的（アスキングビッドやリレーなど）を持つコール
- の3通りです。たとえば、

#### 1. のケース：

W)1C - N)1S - E)1H といった「不十分なビッド」で、E)1Hの代わりに**ネガティブダブル**は、H4枚以上で6ポイント以上を示しますので「**同じコール**」と見なせます。  
「**ほぼ同じ**」とはK一枚**2~3ポイント**ぐらいの**差異**まで認められます。

#### 2. のケース：

W)1S - N)2H - E)1NT といった「不十分なビッド」でのE)2NTへの訂正は、パートナーがオープンしたあとの1NTがフォーシングビッドの6~12ポイントを示し、2の代でのオーバーコールが入ったあとの2NTが10~12ポイントのインビテーションを示すのであれば、「**一部だけに限定したコール**」になるため「**同等なコール**」と見なせます。

## 3. のケース :

W)2NT - N)P - E)2C (ステイマン) といった「不十分なビッド」での E)3C (ステイマン) への言い換えは、両者ともメジャースートのフィットを確認する同じ目的のアスキングビッドであり、「同等なコール」と見なせます。

・「不十分なビッド」では上記の「同等なコール」と「同じデノミネーションを特定する最も低い十分なビッド」に訂正された場合は調整なく続行します。

たとえば、W)1H - N)P - E)1H の E)2H への言い換えは、「同じデノミネーションを特定する最も低い十分なビッド」ですので調整なく続行します。

上記以外のコール、あるいはダブル・リダブルは認められず、反則者のパートナーは「常にパス」しなければなりません。

・「順番外のコール」がされたあと、正しい順番で「同等なコール」を行えば調整なく続行します。ただし、手前のオポネント (RHO) の番で順番外のコールを行い、RHO がパスした場合は順番外のコールを繰り返さなくてはなりません。

パートナーの順番を飛び越してコールし、「順番外のコール」が反則者の次のオポネントに受け入れられなかった場合、まずパートナーは自由にコールでき、さらに反則者が正しい順番で「同等なコール」をすれば、調整なく続行します。「同等なコール」をしなかったときは、パートナーは次の順番で「1回パス」しなければなりません。

## ・「リードの制限」

「不十分なビッド」「順番外のコール」でコールが取り消され、「同等のコール」ではないコールに置き換えられ、その後ディフェンダーになった場合。反則者のパートナーが最初にリードする順番のとき、ディクレアララーは合法的オークションのなかで反則者によって特定されなかった任意のスート1つをリード禁止にできます。

以前できたスート要求はできなくなりました。

## ・「ダミーが受ける制限」

ダミーはディフェンダーのハンドを見てはいけなし、ディフェンダーもハンドをダミーに見せてはいけません。

## ・「トリックの並べ方」

勝ち負けでカードを縦横に並べますが、向きの間違いの指摘は、「次のトリックに自分の側がプレーするまで」になりました。

## ・「トリックの「取り」「取られ」の宣言」

ディフェンダー側の宣言はパートナーの合意があって初めて成立します。今までは「取り」「取られ」の宣言が成立するとプレイは終了しましたが、宣言に異議が申し立てられ、4人全員が合意すればプレーを継続できるようになりました。